

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本



市制施行50周年を記念して「みらい懇談会提言書～夢と希望に満ちたこれからの守山」の一つに「読書日本一のまちづくり」が掲げられました。
 図社会教育・文化振興課 ☎・☎(582)1142 ☎(581)2733
 市立図書館 ☎・☎(583)1639 ☎(583)6949

質問 「読書が好き」な人を増やすためにどんなことをしているの？

答 本との出会いやきっかけ作りを大切にしています



中高生サポーターの活動(本の紹介)

「本を読みたい」と思ってもらえるような出会いやきっかけが大切です。それには、手に取りやすく読みやすい「読書環境」が必要なので、さまざまな取り組みをがんばっています。

具体的な取り組みの例を紹介します。

- 乳幼児：おすすめ赤ちゃん絵本リストの配布、おはなし会
- 小中学生：出前おはなし会と出前ブックトーク、地域文庫の支援
- 中高生：中高生サポーターによる本の紹介、出前おはなし会、ビブリオバトル
- 読書に障害がある人：大活字本や朗読CD、公開朗読会、郵送貸し出し

佐川美術館
アートコラム④

いのちめぐる水、琵琶湖

主任学芸員：馬場まどか
佐川美術館

「琵琶湖が3年ぶりに深呼吸をした——」
 今冬報じられた一つのニュースに環境学者をはじめとする、多くの関係者が安堵しました。晩秋から冬にかけて琵琶湖の表層(浅い部分)の水と底層(深い部分)の水が混じりあい、水温と酸素量が均一になる現象のことを「全層循環」と言いますが、分りやすく琵琶湖の深呼吸と例えられています。この発生条件には寒波などの気候条件が影響するのですが、全層循環が発生しないと、湖底の水は酸欠状態となり生き物の生存が危ぶまれるのです。2019年から全層循環が確認されず心配されていましたが、ようやく確認されたということで、気候変動に影響されるあたり、琵琶湖は生きていることを証明しています。

「滋賀に住む人にとって、琵琶湖はとても大きな存在。県外に住む私の知人は、帰郷すると必ず琵琶湖を見たと言います。私にとっても琵琶湖は安らぎの場。きっと、皆さんにもさまざまな想い出があるでしょう。琵琶湖は、滋賀に住む人々のアイデンティティーの一つといえるのかもしれないね。」

6月24日より滋賀県在住の写真家である、今森光彦さんの展覧会を開催します。今森さんの写真には、里山も含む自然の真実の姿が写っています。そこに写る自然は全て、琵琶湖を中心にはりめぐる水系が関わっています。水の流れの中で数多の生命が生まれ、食物が収穫されます。人間もいもののちの循環の一部分であり、私たちの生活に水を切り離すことはできません。琵琶湖を中心に水がはりめぐる滋賀という場所、そのことを改めて考えるきっかけになれば幸いです。

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話☎(585)7800]でお問い合わせください。